

かわむらこどもクリニックNEWS

Volume 9 No 12

101号

平成13年12月1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

医療制度改革について

院長

先月末、医療制度改革大綱が示されたことを知っていますか。今回は医療制度について考えてみましょう。1999年の統計によると国民医療費は30兆円を越え、毎年数%程度増えています。医療費全体に占める70歳以上の老人医療費の割合は35%を超え、国民医療費の増加率より老人医療の増加率は高く、毎年5%以上の増加を続けています。逆に小児(15歳未満)の医療費は、わずか6.6%にすぎません。医療費を年齢で比べてみると65歳未満の1年間一人当たり約11万円に対して、65歳以上では57万円にもなってしまいます。今後高齢化が進むにつれ、医療費の総額は益々増加を続けることになります。

ところで今の日本の医療制度で、最もよいことは何でしょうか。それは昭和36年に達成された、国民皆保険制度です。今では当たり前で、誰もその恩恵には気付かないかもしれませんが、いつでもどこでも誰でもよい医療が受けられるという世界に誇れるものです。この制度により、日本は世界一の長寿国家となり、医療面の充実も評価されています。御存知のように全ての人が保険料を支払うことによって、病気の時には一部の負担のみで医療が受けられる仕組みです。また医療費が保険料と自己負担だけでは足りず、足りない分には税金が投入されているのです。ところが高齢化に従い医療費が増加し、このままでは制度が破綻する危険性も出てきているのです。

さて増加する医療費に対しては、手だてがあるのでしょうか。税金の投入を増やすこと、保険料や自己負担を増やすことです。また医療費の支出を減らすことも大事な要素です。ただでさえこの不況、税収の増加にはあまり期待ができません。税金の投入を増やすためには、他の支出から回さねばなりません。不必要な公共投資など無駄な支出はあるでしょう。だからといって医療費に向けることが最適な選択とは限らず、国全体として福祉を考えれば、景気対

策に回すことも必要なことなのかもしれません。

今回の医療制度改革では、保険料と自己負担率の引き上げや診療報酬の引き下げという項目も盛り込まれました。今回の改革では小泉総理の「三方一両損」の言葉と裏腹に、患者さんの負担だけが大きくなっているようです。民間の保険では支払額が大きくなれば、保険料が高くなってしまふのは当然です。急に熱を出したり、吐いたりすることが子どもの病気の特徴です。お子さんをお持ちの方はよくわかると思いますが、今の制度がいつでもどこでも受けられなくなつては大変です。制度の破綻を考えれば、ある程度の負担の増加は止むを得ないことなのかもしれません。ずっと保険診療が定着していたため、医療にはお金がかかるという意識が持てなくなったのは事実です。しかし患者さんが自分たちの自己負担を少なくするためにも、医療に対するコスト意識を持つことが大切なのです。買い物では値段や賞味期限を気にするだけでなく、原材料や添加物まで気を配ります。しかし医療に対するコスト意識は、あまり高くはありません。コスト意識を持てば、医療の内容や処方された薬にまで気を配れるようになります。もちろんコスト意識は患者さんだけでなく、我々医療機関も持たなければならないことです。後半での文章では、あえて“よい医療”という言葉を外しました。医療機関は、患者さんの負担が増えることによって受診を控えるため、病気の早期発見や治療の中断を危惧しています。医療機関も経営ということを考えて通することはできず、収入の減少ということも問題になります。今の状況では患者さんの負担を軽くし、医療機関の経営を安定するという事は、相反することでしょう。国家の財政に余裕のある時期では、この両方を満足することは可能だったかもしれませんが、社会全体がリストラなど痛みを伴う対応をしている以上、両者ともある程度の痛みを我慢するしかないのかもしれない。しかし患者さんは弱者という基本理念があるかぎり、そこを守るのも医師に与えられた責務だと思います。同時に問題を解決していくためには、よい医療を提供し無駄を省くなどの努力も必要なのでしょう。また高齢者や乳幼児医療費助成など、患者さんの負担を減らす運動も展開していかなければなりません。この制度が万が一無くなって、最も困るのは患者さんであり、我々自身なのですから。

今回はかなり真面目に、医療保険制度を取り上げてみました。この意見は個人的なものです。皆さんが医療費や保険制度について考えるきっかけになれば幸いです。



3才児健診のため午後休診

12月7日(金)

・年末年始のお休み

12月29日(土)午後から

1月3日(木)まで休診。

・休日当番

12月24日(月)は在宅当番

・栄養育児相談

毎週水曜 13:30 ~ 栄養士



12月の
お知らせ

読者の広場

先月も30通を超えるメールを戴きありがとうございました。100号特集号を送ってもらった横浜の野木さんのメールを紹介します。「クリニックNEWS・100号、本当におめでとうございます。野木優杜(ゆうと)の母です。7月に、仙台から横浜へ引っ越したのですが、このたび友人(原嶋晃生くんのママ)から、友人(森愛加ちゃんのママ)が新聞に2回連続で載っているの、懐かしくもあると思うのと、わざわざ新聞を送ってきてくれて、読んでいるうちに目頭が熱くなってきました。お礼が大変遅れてしまいましたが、本当にお世話になり、ありがとうございました。息子が一歳の時、嘔吐下痢症で食欲も元気もなく、病院で一日中、点滴をする日が一週間続いた時がありました。自宅で看病することもできたのですが、すぐそばで見守ってくれている、という安心感が欲しくて、「どうか点滴を...」と、わがママを言っても嫌な顔をせず、対処してくださったこと、本当に感謝しています。心から安心して子供を診てもらえる、かわむらこどもクリニックのようなホームドクターは、この先巡り会えないような気がして、ちょっと淋しい気持ちになります。病気になったらどうしよう、といらぬ心配をしているわけではありませんが、どこの小児科も機械的な受け答えのみで、母親の不安・心配はつものばかりです。そういう目に見えないものが、どれほど大きかったのか、今になって、ただただ感謝です。先生の開業理念が、先生自身は言うまでもなく、看護婦さんや受付の方、院内のすべての雰囲気から、すごくにじみ出ていた気がします。「お母さんクラブ」の方も、まだ入ったばかりで、たくさん勉強しようと思っていたのに、残念でなりません。積極的にお手伝いさせていただきま〜す、と決まったところで仙台を離れることになり、申し訳なく思います。たいへん長くなって申し訳ありません。先生もうさぎ年なんですね。私もうさぎ年で、茂木さんとは“タメ”(?)です。ちなみに息子もうさぎ年。自分の父親と重ねてみてしまうのですが...(ごめんなさい)お体に気をつけてくださいませ。」。離れてもこんなに思ってもらえること、有り難く思います。他にもいい先生が絶対います。そんなこと言わずに、根気よく探してみてください。自分では若いつもりですが、お父さんと重ねられる...。複雑な心境です。次は青葉区の今野さんからのメールですが、とても大事な質問が含まれています。「いつも大変お世話になっております。今野菜緒の母です。今日もインフルエンザの予防接種ありがとうございました。いつもお世話になっていて、質問させていただきたかった事を今日は思い切って質問させていただきます。先生は小児科専門ですが、内科はなさらないのですか?。たまに他のお母さん方に処方なさっているのは見かけますが...。今日私が風邪気味でうかがったとき「薬は?」と聞いてくださって欲しかったのですが、お忙しそうで遠慮させていただきました。先生が大人も診て下さるなら、働いていて自分の風邪も病院でなおすことができない私も、お願いしたいとは前から思っていました。この前TVで知事選に出馬されている候補者のお一人が「小児科医不足の問題をどうするか?」との質問に、「小児科・内科と分けるからおかしい。子供が診れて、大人が診れないわけがない、子供なんて簡単なんだから...」という内容の回答をしていて、素人ながら「この人はおかしい」と思ってしまいました。先生の新聞かなにかで「私は小児科専門に診て行きたい」というのを見た記憶があるのですが、うる覚えでもう一度先生のお考えをお伺いしたく初メールいたしました。たくさんお話したい事がありますが、とーっても長いメールになりそうなので、あと一言だけ書いて初メールを終わりたいと思います。菜緒を生んで、ずーと小児科探しをして、先生にお会いしたのが約10軒目の小児科でした、なにか分からないのですが、私には合わない小児科医ばかりで...。「このまま行き当たりばっかりでかかりつけ医はいないな。」と思っていた時期に先生とお会い出来、菜緒のことよりも自分が気持ち的に楽になったように思います。本当に感謝しております。いつもお忙しそうで、お体が心配です。無理せず、でもお仕事がんばってください。」小児科と内科小児科についての疑問です。答えとして1000字を超える返事を差し上げましたが、皆さんはどう考えているのでしょうか。是非意見を寄せ下さい。次回以降で御意見を紹介したいと思います。御意見は患者さん専用アドレス(patient@kodomo-clinic.or.jp)又は投書箱へ。

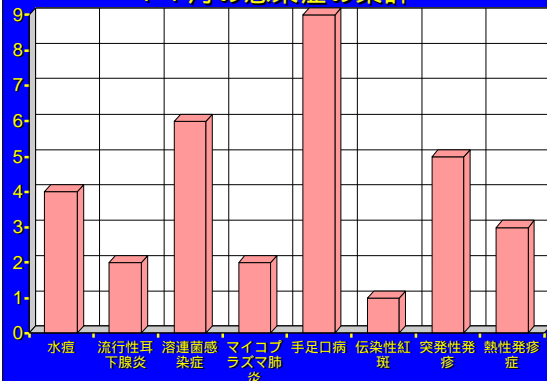


義援金に対するお礼

10月から米国多発テロ犠牲者とアフガニスタンの子どもたちへの募金をお願いしました。お陰様で11月末現在、9727円になりました。12月いっぱい設置し、院長・スタッフ分を加算して送りたいと思います。御協力、ありがとうございました。

ホームページで全てのNEWSが読めます
100号を区切りとして「かわむらこどもクリニックNEWS」を、HP(http://www.kodomo-clinic.or.jp)に掲載。全号PDFファイルとして、読めるようになりました。

11月の感染症の集計



手足口病がまだあります。咳がひどく発熱が続く中にマイコプラズマ肺炎があり、あちこちで流行しているという話を聞きます。グラフにはありませんが、高熱と嘔吐の胃腸炎、扁桃に膿が付き高熱が続くアデノウイルス感染症もあります。インフルエンザの話は聞きますが、今のところ流行はしていません。

編集後記 投書やメール多いことは良いことですが、新聞で紹介しきれなくなりました。HPなど何か別な方法を考えなければ。そのあたりで文字も多くなり、読みにくくなってしまっています。また今回の医療制度改革に対しては様々な意見があるところです。小児科の立場を強く出したかったのですが、曖昧になってしまいました。恐らく多くの人(新聞コンテストのおかげ?)の目に触れることを意識しすぎたかもしれません。反省反省。

